

Enrico Isamu Ōyama

#08

アーティストの視点で見た、
生のアート事情を。

ニューヨークのアートシーンは層が厚いと言われる。大型の主要美術館やチェルシーに代表されるコマースギャラリー以外にも、オルタナティブスペースやアーティストのオープンスタジオなど、アートに触れることのできる機会が多くあるからだ。この文章では、著者の交友範囲を中心にまだメディアであまり紹介されていない作家やスポットを、当日取材した流れに沿って紹介したい。

ローアークアーティストサイドをイーストリバー方面に進むと、ヒューストン通り付近のアトリー通り沿いに「Ulterior Gallery」がある。チェルシーの大手画廊に勤務後、独立した田邊多佳子が2016年にオープンしたスペースで、このエリアで唯一、日本人が設立した現代美術専門のギャラリーである。展示作家は日本人に限らず多様な顔ぶれで、取材当日はメキシコ生まれのアメリカ人画家、エミ・ウインターの個展が行なわれていた。これまでは展示毎に企画するスタイルだったが、今後はロバート・ベックのようなアメリカの中堅作家や日本在住の若手、国谷隆志など、所属作家を中心にプログラムを組んでいくとのこと。その展開に注目していきたい。

Ulterior Gallery



ギャラリーが集まるエリアから少し外れた場所にぼつりと佇む「ウルテリア」は、日本人オーナーが営む新しいギャラリー。店名には「辺境」の意も。

○172 Attorney St.,
New York ☎917-472-
7784 12:00~19:00
月~水休

MAP
1
D-2